はくがんさん

アートだァ

第 113 号令和 2 年春号
伊豆市　法住寺 発行

法住寺ホームページ2月22日ブログより【先日 NHKBSを観ていたらパリオペラ座のこけら落しをやっていた。モダンバレーと日本の能を融合させた舞台で見ごたえあるものだった。この舞台を演出したのは現代美術作家の杉本博司と云う方。そこで携帯検索すると杉本博司が長年かけて集大成した江之浦測候所とある。「オイ　チョット江之浦測候所って知ってる?」と家内に聞くと「ああ　それね」と奥の方から婦人雑誌を持ってきた、2018年9月号とあった。「あの時、話したのに…」、関心を示さなかったとのこと。

その婦人雑誌の特集などを見るとなかなかスゴイ。2年近く前の雑誌をサッと出してくる、これもスゴイ。場所は小田原の近く車で1時間かからない、2日後が空いている、これはご縁だ。「行ってみる?」、「イイよ～」珍しくOKの返事。

かくして江之浦測候所行って来ました。相模の海が見渡せる、この海は1万年前の人々も観ていたであろう。パンフレットによると『悠久の昔、古代人が意識を持ってまずした事は、天空のうちにある自身の場を確認する作業であった。そしてそれがアートの起源でもあった。(杉本博司)』】

＊

何十メートルもの長い四角いトンネンからは、冬至の朝日を真正面に遥拝し、その長い空間一杯に金色の光が満る。百メートルもの石の長廊下の先は夏至の日の出が駆け抜ける…。大自然を体感し天空にある自身を確認する場。何か心の奥底からわいてくる創造的なエネルギーを感じた。

＊

第一墓地の上から遠くに達磨山　右手斜面を作業　まさにアートだァ

天城シャクナゲ(4月下旬)　石段、敷石　巨樹　あっちもこっちもアート

護持会役員さん　汗ダクダクの作業おかげさまできれいになりました

お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

翌日、数日前に護持会役員さんと共に草刈りし、雑木を切った境内裏口の斜面を登った。背丈を越える茅の草刈り、急斜面の雑木処理、汗、汗、汗の大変な作業、よくやってくださった。第1墓地の上から作業後の斜面をみると陽に輝いてまことに美しい。突然心の奥底から昨日、江之浦測候所で感じたような創造的なエネルギーが湧いてきた。

オオ～ッ！　これはアートじゃないか！

葛葉でボサボサしていた時もあったが、歴代の役員さんが何十年と根気よく手を入れ、境内整備作業では檀家さんが植樹し草刈りをしてきてくれた。その樹木が根を張り枝を広げる、美術館のオブジェと同じだ。この場にお寺が開かれたのは千年以上前、その頃のご先祖さまもこの場で同じ空を見つめ自身を確認したであろうとも想った。

ある日の出来事

すごい雨上がり、道路にはべったりのぬれ落葉。さて、これをどうやって片付けようか。いいアイデアが浮かぶ、あの道具だ。T字型の柄付きを持ってきてしばし夢中に。ふと気付くと青年が一人墓地の急坂を登ってゆく。中程のお墓の前でゆっくりと手を合わせ降りてきた。知らない方だが思い切って声をかけてみた。「大二郎くんのお参りですか？」、「そうです」。「同級生？」、「そうなんです。今日は近くで会社の研修会があったので帰りにお参りさせてもらいました」。聞けばよくお参りに来ているとのこと。大二郎くんは私もよく知っていた子で小さな頃からサッカー大好きで、くりくりした可愛い子だった。末っ子で家族はもとより地域の人たち、学校の友だち、たくさんの人たちに愛されていた。その少年が高校生の時、惜しいことに病気で亡くなってしまった。人々は深い悲しみに包まれ、そして心から泣いた。

藪椿と紅梅の香合

＊

「今でも僕泣けてくるんです。ほんと仲良しだったから…」と青年は続けた。「そうですか。ご両親もよくお墓にお参りに来ておられますよ。」　私はご両親が度々来てはお墓の掃除をされたり、お花をお供えしておられるのを知っている。亡くなった息子さんと一緒に過ごしておられるのだなと思いつつ見ている。「あ～ッ、それでいつもきれいな花がお供えしてあるんですね。僕いつも感心していたんです。」

青年は自分は結婚して子供もでき、そういう節目節目に亡き友を思い出すという。そして「そういう自分がお参りしてもいいのかな？と思うこともある」と正直に話してくれた。「いいえ、お参りしてくださることがどれ程にも嬉しいことか」と私は返した。この時私は確かに教えられたのだ。「忘れないでいるということ」を。亡き友の菩提を弔いながら彼は彼の人生を全うして生きる。そこには感謝の気持ちもともなうことだろう。励まされて前に進めることもある

ことだろう。別れ際に私は言った。「こないだのお彼岸には家族、親戚集まってにぎやかにご供養されていましたよ」

後日、故人のお母さんが来寺された折、この青年の話をすると涙ぐんで喜んでおられた。不思議に思うことがある。無心に何かしている時こそ「変化（へんげ）の人」が私の前に現れる。今回も一人の青年にめぐり逢えた。彼も「変化の人」だったのだと思う。

年間行事予定

2月9日護持会新年役員会が開かれ年間の行事、日程が決まりました。詳細は別紙にて配布、宜しくお願い致します。尚、お寺のホームページにも掲載します。

- **春季彼岸会**　3月20日(金・祝)
- **お盆の世施餓鬼会**　8月3日(月)
- **秋季彼岸会**　9月22日(火・祝)
- **お会式**　10月24日(土)
- **境内整備作業**　3月 清水①、7月 小川、9月 元村4班、12月 元村2,3班
- **池上本門寺万灯**　10月12日(月)
- **七面山登詣**　5月13、14日、11月14、15日
- **中伊豆立正会・法住寺**　9月5日(土)
- **東北慰霊団参(宗務所主催)**6月14、15日

星祭り

1月26日(日)朝6時前、凛とした大気の中に響くここ地よいお経の声と木鉦。「音楽」という言葉では言い尽くせない「楽」、心の奥底からの「魂楽」か。諸天善神がこの白岩山に喜んで集まって下さっていることを直感した。

午後1時半水行、続いて本堂でご祈祷。130ある椅子が足りずにご迷惑おかけし、また長時間にわたるご祈祷、ご祈願でしたが、お帰りになる皆さんの顔はとてもにこやかで穏やかでした。大勢の皆さまのご参詣、まことにありがとうございました。

洋明さんのおはなし

市川市中山・法華経寺の百日間の大荒行には、瑞門（ずいもん）という普段は開かずの門があります。その門が開くのは入行の十一月一日と出行の二月十日のみ。その瑞門から修行を終え出てくる修行僧の姿は誠に尊い。その姿は、私自

身また大荒行堂に行かせて頂きたいとの思いを掻き立てるのです。この百日の修行中は大きく分けて、二つの修行があります。自分の為の「自行(ジギョウ)」と、他人の為の「化他行(ケタギョウ)」です。荒行中は鬼形鬼子母神さまの御前で、まず自らの罪障消滅と功徳を積む「自行」を行い、その後自行で積んだ功徳で百日間待って下さっている檀信徒の為に祈る、まさに他の為に祈る「化他行」をします。

＊

当山の星祭り・新春祈祷会では、鬼形鬼子母神さまを本堂正面に遷座し早朝より読経をします。いつも威厳に満ちたお顔をされている鬼子母神さまですが、この日はまさに母親の如く慈悲に満ち満ちていると私の目には映るのです。祈願会では、まず一年間御守護を頂いたことに「いつもありがとうございます」と報恩感謝を申し上げます。すると鬼子母神さまは、まるで久々に実家に帰ってきた子供に母親が声をかけるが如く「お帰りなさい、去年一年はどうでしたか？」と皆さんに言って下さったように感じました。さらに今度は祈願中のこと、鬼子母神さまが「皆さんそれぞれの願いはわかったよ。けれど何故そのことを願うの？何故そうなりたの？」とおっしゃられているように感じたのです。例えば「なぜ身体健全でいたいの？」と。

いざそう問われたら、皆さんはどう答えますか？私ならあまり深く考えず「とりあえず健康でいたい」や「だって何をするにも健康が一番」と自分の事を考えて答えると思います。その時に鬼子母神さまは、こう教えて下さったと思うのです。「自分の為だけでいいのかな？自分が健康でいられれば家族を養える、健康でいられれば目標に向かってがんばれる。また病になることは嫌だろうし、そうなったら家族や職場の同僚が困る。だから身体健全でいさせて欲しいという願い方をしたらどう？」と。「財を成したいと思うなら、自分だけが財を成せば良いのではなく、その財を人の幸せの一助の為に使いたいので財を成させて下さいと願ったらどう？」と。

＊

自分の幸せや満足の願いの先に「家族の為、誰かの為を付けるといいんじゃない？」の化他行の教え。そしてこの化他行は、「自分を大切に出来る」自行があってはじめて成り立つことも忘れないで下さい。まずは自分の幸せや満足を感じないと、本来出来る化他行もなかなか出来ないのもまた人間です。

来年の星祭り・祈祷会で「一年間どうでした？」と鬼子母神さまに問われたなら、「お陰さまで、こんな幸せがありました。その幸せを周りに分けることが出来ました。」と即答出来るように日々精進して参ります。

お寺のホームページ
http://juryo.jp/
検索⬇［伊豆 法住寺］

［寿量の祈り　敬意と感謝］

大自然　ありがとうございます。　合掌
社会の皆さん　ありがとうございます。　合掌
ご先祖さま、家族の皆さん
ありがとうございます。　合掌

御志納金［一月～二月］

清水　森野　宗昭殿　尊祖母七七日忌砌
元村　三田　五月殿　夫君一七回忌砌